

- 注意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
 2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班 (TEL 2171, 2174) に。
 3. 本電の主管変更は記録班 (TEL 2172) に連絡ありたい。

電信写

チョウ総理：中国の基本的立場は、朝鮮半島の緊張かん和と安定を望むということである。よりはつきり言えば、朝鮮半島の緊張をはげしくする如何なる行動、やり方も、それがどの方向からくるものであれ、反対する。

北朝鮮の提起した3者会談は、積極的意義を持つものと見ている。この3者は朝鮮半島に直接のかかわりを持つた国である。即ち南北朝鮮は直接の当事者であり、米国も南朝鮮に軍隊を置いており、南朝鮮に対し軍事統すい権を持っているので、これらの国が話し合つて、はじめて半島の平和と安定に役立つと思う。3者会談が南朝鮮の自そんな心きずつけるという問題はないと思う。3者会談は、米国と南朝鮮がしばしば何回も提起したものであり、昨年9月北朝鮮が3者会談に無条件にこ応したのに、米国は態度を後退させた。これは朝鮮半島の緊張かん和にプラスにならない。中国としても、北朝鮮と米国の間でメッセージを伝えてきたこともあり、くるしい立場に立たされている。朝鮮半島問題はこの3者が誠意をもつて臨めば、さほど難しくない。まず、この3者会談を始めることが重要で、始めれば進展があると思う。最近南北間でハンモンテンでの会談、香簡の交換等が行われ、関係の改善の動きがあることをよろこびをもつて見ている。ナカソネ総理が私達の立場を理解していただき、米国と南朝鮮に3者会談に応じるよう働きかけてほしい。

中国と南朝鮮の関係について中国側について言えば、既にいくつかの実質的調整を行っている。例えば国際組織の依頼で中国で行われる国際会議、スポーツ大会に南朝鮮の参加を許可している。また来る4月には中国のスポーツ団が南朝鮮に行つて国際競技に参加する予定である。1986年のアジア競技大会についても、状況に新たな障害がなければ、積極的に参加を考慮したい。(注：この点については、後刻ヨウシン

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班 (TEL 2171, 2174) に。
3. 本電の主管変更は記録班 (TEL 2172) に連絡ありたい。

電信写

予副司長より、絶対に対外的に明らかにしないでほしい、この点が外にもれると、結果的に日本にとつても不利益になる、との発言があり、対プレスブリーフではしようかしていない。) 中国と南朝鮮が相互間の関係をじゆくすることについては、条件はまだじゆくしていないと思う。このような政策をとっているのも、半島の緊張緩和と平和を考えてのことである。中国のこの問題の処理が適当でなければ、半島の安定にプラスにならないと思う。ナカソネ総理、安倍大臣には、この点理解していただけると思う。南北平和統一問題に展望があるとき、中国と南朝鮮の問題は難しくなく解決できる。

中国在留朝鮮人のさと帰りは、中国としては申請があれば、すぐ許可する。日本で会うことでも、南朝鮮で会うことでも構わない。実際に、南朝鮮へのさと帰りは行われており、定住する人々にも許可を与えている。いずれにしても、中国側に問題はない。

(この項に関しチョウ総理は、"南朝鮮人が親族さがしのため訪中することについても、中国としては問題ない"旨述べたが、この部分は通訳されなかつた経緯がある。

) (了)